

■島地黙雷 真宗僧。廃仏毀釈に抵抗、国民教化政策を瓦解させ信教の自由を獲得、海外伝道や監獄教誨にも尽力した。

しまじもくらい

適塾ホヰン・ 1838＝ 周防国佐波郡徳地宰判升谷村で、_本願寺派末専照寺円隨の四男に生まれる

阿部正弘首座1845＝ 7歳： 乗円寺法瑞の錦園塾に学び、
・ ・ ・ ・ ・ 1847＝ 9歳：

北斎没・ ・ ・ 1849＝11歳： 妙蓮寺の養子となつてのちも、
神竜に随従するなどして修学。

ペリー来航・ 1853＝15歳：

松下村塾・ ・ ・ 1856＝18歳：
蕃書調所・ ・ ・ 1857＝19歳： _養家を出奔、肥後の真宗学僧原口針水に師事して、受け継いでいくことを覚悟、

桜田門外変・ 1860＝22歳：
帰郷後、安芸に遊学。

禁門の変・ ・ ・ 1864＝26歳： _火葬禁止の藩令が出されると、
薩摩藩士密航1865＝27歳：
薩長同盟・ ・ ・ 1866＝28歳： _それを不当として「送葬論」をつくり、また大洲鉄然らの藩内宗風改正運動に加わり、ともに改正局という
明治維新・ ・ ・ 1868＝30歳： _長防二州門末総代の1人として上洛、本山改革に従い宗教・教学の再編を進め、廃仏毀釈対策に奔走、

初の日刊新聞1870＝32歳： *上京して本山参政となり、寺院寮設立、ついで敎部省開設などの運動にあたった。
廃藩置県・ ・ ・ 1871＝33歳： 神田に{日新堂}を開いて{新聞雑誌}を刊行。
学問のすすめ1872＝34歳： _梅上沢融に従つて赤松連城ら留学僧とともに渡欧、パリから敎部省下の宗教行政を批判した三条教則批判
明治6年政変 1873＝35歳： 建白書を提出。ギリシャ・トルコなどを経、インドで仏跡を巡歴して、
佐賀の乱・ ・ ・ 1874＝36歳： _帰国、直ちに神道国教化政策に抗して政教分離・信教自由を主張、大教院分離運動の先頭に立つ。
初の民間工場1875＝37歳： 小野梓らによる政治啓蒙結社{共存同衆}創立に参加、{報四叢談}発刊にも参加、
三つの反乱・ 1876＝38歳： _神道・仏教諸宗の反対にあったが、活発な論戦を展開し、木戸孝允・伊藤博文らの支援を取りつけ、
西南戦争・ ・ ・ 1877＝39歳： {白蓮社}開設。_神仏合併の大教院から真宗を脱退せしめ、大教院は解散、信教の自由保障の敎部省口達が出された。教導職権中教正に補せられたが、教導職の政教混淆を問題として一旦これを返上した後、
琉球処分・ ・ ・ 1879＝41歳： 中教正を受けた。妙誓寺住職を辞し
明治14年政変1881＝43歳： 本山参政主義に就き、宗門迎宮の中枢部に入るが、教学上異端の疑いをかけられ、一時役職から離れ、
新体詩抄・ ・ ・ 1882＝44歳： 法主明如(大谷光尊)によって強行されようとした寺務所東京移転計画に反対、
岩倉具視没・ 1883＝45歳： *事件落着後は主に東京を拠点に活動しながら、一等巡教使以降、再び要職につき、
秩父事件・ ・ ・ 1884＝46歳： {令知会}を組織し、{令知会雑誌}発刊、

初の対等条約1888＝50歳： {女子文芸学舎(千代田学園)}創立に関与し、政治評論結社{政教社}結成に参加。_本山宿老所議員、
帝国憲法發布1889＝51歳：

大本教・ ・ ・ 1892＝54歳： 国内布教はもとより、海外伝道にも積極的で、_海外宣教会会長となり、
郡司千島探検1893＝55歳： _本山内局執行長を経て、
日清戦争始・ 1894＝56歳： *宗門学階の最高位たる勸学にのぼった。
監獄教誨・軍隊布教にも尽力し、足尾銅山鉅毒事件の被害者救済に奔走するなど、幅広い活動を行なう。

仏教各宗代表で結成された仏教各宗協会の「仏教各宗綱要」編纂事業では編輯委員長となり、
子規句歌革新1898＝60歳： 「仏教各宗綱要」全5冊を完成させ、
Bushidou・ ・ ・ 1899＝61歳： 「通俗仏教各宗綱要」も刊行された。

田中正造直訴1901＝63歳：

日露戦争終・ 1905＝67歳： _奥羽布教総監に任命され、これを機に盛岡の願教寺住職となるが、
_その後も台湾・満洲の教状視察に従い、

_最晩年に至るまで各地への布教をやめずに、
韓国併合・ ・ ・ 1910＝72歳：
大逆事件判決1911＝73歳： 東京帝国大学附属病院に入院、_没した。